

ライフステージと発達に応じた自転車安全教育



自転車安全利用のゴール

どの年齢層においても意識せずに安全行動が取れる能力を養う

ライフステージと発達に応じた教育で事故に遭わないための知識・技能を身につけることが必要
※当たり前前の交通ルールだけでは不十分

京都市とともに安全教育の開発と実践

京都市立大宮交通公園モデル



未就学児

キックバイクで「遊びながら学ぶ」



高齢者

自らの身体能力を「遊びながら認識」して事故に備える



京都市立大宮交通公園
○令和3年4月にリニューアル 自転車広場・模擬道路・コミュニティルーム・自転車店がある
○京都市とともに実践して開発してきた自転車安全教育を、公園内の自転車店が楽しく自転車安全教育を実施。

インクルーシブ・サイクリング

「自転車が持つチカラ」を体感できる機会づくり



発達に合わせた教育

子どもの発達段階に合わせ、大切な身体の使い方や協調性、考える力を「無理なく楽しく学ぶ」



小学生対象サイクリング

まちを走って、学んだことを実践



小学生

実際の道路環境で走り方を「楽しく走って学ぶ」



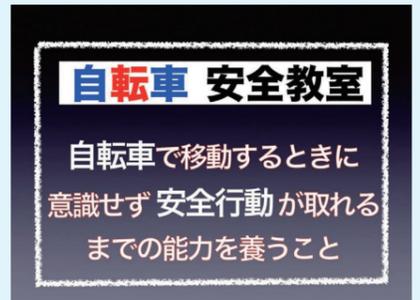
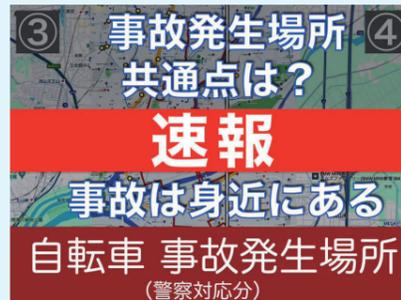
走行中の自動車や自転車の会話は手を使っての「コミュニケーション」大切な身を守る術の一つ

中学・高等学校での授業としての継続

身を守る術を「楽しく、わかりやすく」を大切に実践

中学生・高校生

校区に潜む危険箇所を知って、身を守る必要な知識や技能を身につける



「なぜ」「どうして」の視点から行動変容につながる工夫が大切

自転車安全教育をひろく伝えるために

自転車安全教育のツールによる指導者育成

警察庁の組織する自転車安全教育ガイドライン策定に向けての官民連携協議会の構成員として協力

自転車安全教育のツールによる自転車安全教育の指導者育成も実施しています。



ご興味・ご関心のある方はこちらまで



ライフステージに応じた自転車安全教育のツール

自転車安全教育は **安全と信頼** を結ぶ **交通の架け橋** となり、 **未来を変える行動** につながる

「自転車は人生を豊かにする」

人・自然・まちとのコミュニケーションが生まれ、新たな世界が広がる。自転車で、風を切って自由に行ける楽しさを手に「自転車が持つチカラ」を体感してほしい。

